

# 大津企業景況調査報告書

(第90回)

令和2年7月 ～ 9月期 実績

令和2年10月 ～ 12月期 見通し

大津商工会議所

大津企業景況調査について  
(令和2年7月～9月期)

1. 調査方法

大津商工会議所会員企業 100 社に F A X 方式による調査

2. 調査企業

産 業 別	調査対象企業数	有効回答企業数	回 収 率
製 造 業	1 2 社	1 1 社	9 1 . 7 %
卸 売 業	1 3 社	1 1 社	8 4 . 6 %
小 売 業	2 5 社	2 1 社	8 4 . 0 %
サービス業	3 1 社	2 8 社	9 0 . 3 %
建 設 業	1 9 社	1 2 社	6 3 . 2 %
合 計	1 0 0 社	8 3 社	8 3 . 0 %

3. 調査期間

調査対象期間は令和2年7月～9月とし、調査時点は令和2年9月1日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指数として DI 指数を採用した。DI 指数とは Diffusion Index (景気動向指数)の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた数値である。

「業況」、「売上高」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は、前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金借り入れの難易度」の DI 指数は、3 ヶ月前との比較である。

「採算(経常利益)の水準」、「取引の問い合わせ」の DI 指数は、過去比較でなく、水準を聞いたものである。

## 景況感は全体では底入れの兆しあるも、回復の足取りは重い

令和2年7月～9月期の大津企業景況調査の結果がまとまった。調査結果を示す指数としてDI指数（景気動向指数）を採用している。DI指数は実数値などの上昇率を示すものでなく、強気、弱気などの経営者マインドの相対的な広がりの意味する。

### 全体

景況感は、今四半期の全体の業況判断DI（前年同期比）が前四半期の▲65から▲53へと12ポイント改善し底入れの兆しは見受けられるものの、水準はなお低い。業種別では、小売業が▲83から▲48へ、建設業が▲57から▲33へと改善がみられる一方で、製造業が▲64から▲73へ、卸売業は▲20から▲55へとさらに悪化しており、引き続き新型コロナウイルスによる消費の低迷や需要減少の影響が及んでいる状況が浮き彫りになった。

先行きの業況判断DIは、全体では▲53から▲41へとマイナス幅は縮小するが、回復の足取りは重い。業種別では、製造業、小売業、サービス業ではマイナス幅の縮小が見込まれるものの、建設業、卸売業でマイナス幅が拡大するとみている。経済活動の再開により一部の業種では改善の兆しが窺えるものの、プラスに転じるのは未だ先のようなのである。

#### □ 業況判断DI（前年同期比）は、建設業、小売業で改善も、製造業、卸売業でさらに悪化

「前年同期比でみた業況判断DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、前四半期の▲65から今四半期は▲53と底入れの兆しがある。業種別では、建設業、小売業、サービス業で改善の動きがみられるが、製造業、卸売業でさらに悪化しており、業種間の格差が出始めている。

#### □ 売上DI（前年同期比）は、全体では大幅悪化が続くも、業種によりまだら模様

「前年同期比でみた売上DI(全体)」(「増加」－「減少」)は、前四半期の▲65から▲64へと大幅悪化が続く。業種別では、前期悪化した建設業が▲50から±0へ改善し、小売業も▲83から▲71へマイナス幅が若干縮小した。一方で製造業は▲64から▲82へ、卸売業は▲40から▲73へ、サービス業は▲67から▲75とさらに悪化している。

#### □ 採算DI（前年同期比）は、全体に改善の兆しあるも、製造業、卸売業で悪化

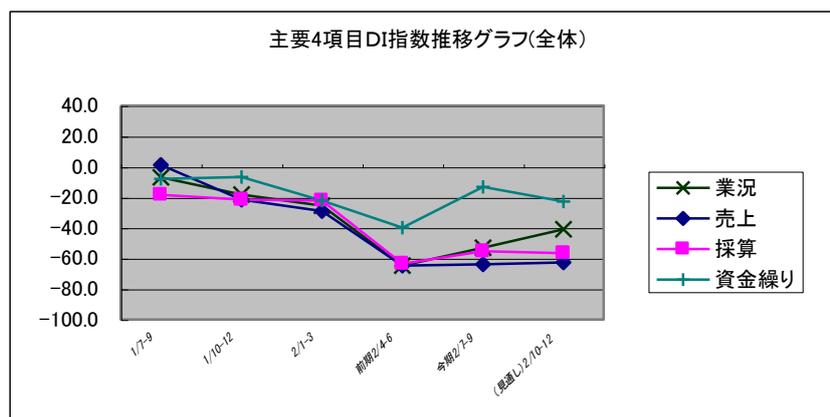
「前年同期比でみた採算(経常利益)DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、前四半期の▲64から今四半期は▲55と改善した。建設業が▲57から▲8へと大きく改善、小売業も▲74から▲57へ、サービス業も▲74から▲61へと改善した。一方で卸売業が▲30から▲73へとマイナス43ポイントの大幅悪化となり、製造業も▲55から▲73へ、マイナス幅が拡大した。

#### □ 資金繰りDI（3ヵ月前比）は、全体として改善、特に小売業で大幅改善

「3ヵ月前比でみた資金繰りDI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、前四半期の▲40から▲13へと改善した。特に小売業は▲52から▲5へと47ポイントの大幅改善となり、他の業種も押しなべて改善した。政府のコロナ対策融資施策の効果が如実に表れているとみられる。

#### □ 従業員DI（前年同期比）は、全体で人手過剰状態から再び人手不足状態に

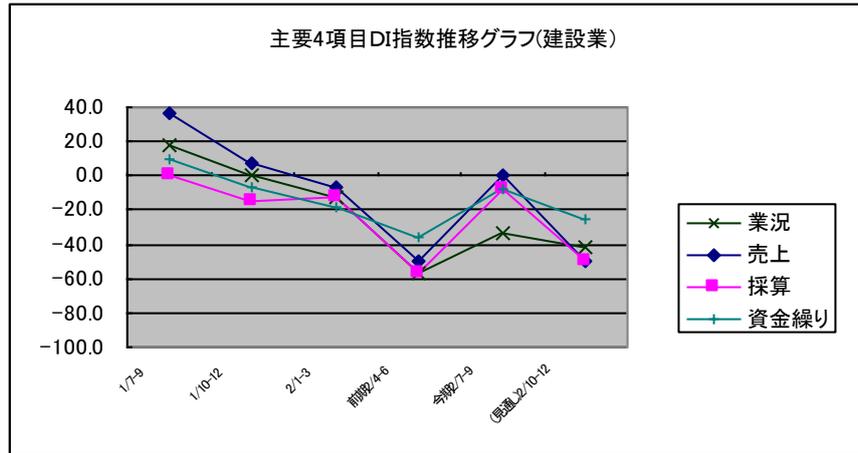
「前年同期比でみた従業員DI(全体)」(「不足」－「過剰」)は、前四半期に一旦▲7（人手過剰）になったが今四半期は再び+6（人手不足）となった。業況の改善に伴って、小売業は▲13から一転して+14となり、サービス業でも▲19から±0へ、建設業でも+29から+33へと人手不足感が高まっている。一方で、製造業や卸売業では▲9（人手過剰）が続いている。



## 建設業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲57 から今四半期は▲33 へと、マイナス幅が大きく縮小した。個別指標をみると、「売上」も前四半期▲50 から今四半期は±0 へと大幅に改善し、「採算」についても▲57 から▲8 へと改善した。「資金繰り」は▲35 から▲8 へと改善しており、国の各種の融資策が資金繰り改善に影響しているとみられる。

建設業は、長期にわたり景況感が堅調であったが、前四半期での新型コロナウイルス拡大による建設現場での作業停滞や資材の調達難などから業況が急激に悪化した。しかしその後、一部での経済活動の再開もあって、事業環境は回復の兆しが見受けられる。只、コロナの第2波の拡大を懸念する声も聞かれ、先行きの見通しは決して楽観できる状態ではないようだ。「従業員」は+29 から+33 となり、売上の改善に伴い人手不足感は高まってきている。

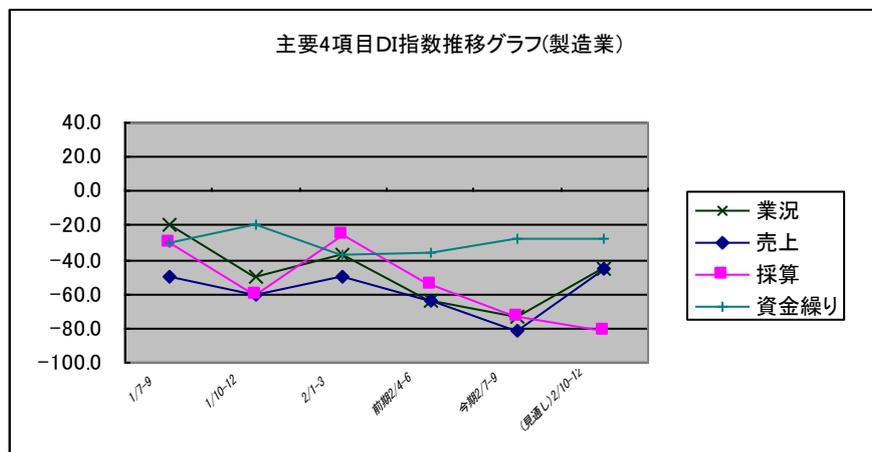


## 製造業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲64 から今四半期は▲73 へとさらに悪化し、リーマン危機の際の▲90 には及ばないものの、非常に厳しい状況となっている。個別指標をみると「売上」は▲64 から▲82 へ、「採算」についても▲55 から▲73 へ、「採算の水準」についても▲9 から▲27 へと悪化している。一方、「資金繰り」については▲36 から▲27 へと改善している。国の助成金や補助金の活用で一時的に凌いでいる様子も窺える。

前四半期から新型コロナウイルスの影響を大きく受け始め、今四半期に入り、その影響はさらに拡大している。取引先からの受注量の減少やキャンセルの発生に加え、材料や資材の調達難が景況感のさらなる悪化に繋がっているものと思われる。

「従業員」については今四半期も▲9 とマイナスで、仕事量の減少の影響による人手過剰状態は続いている。

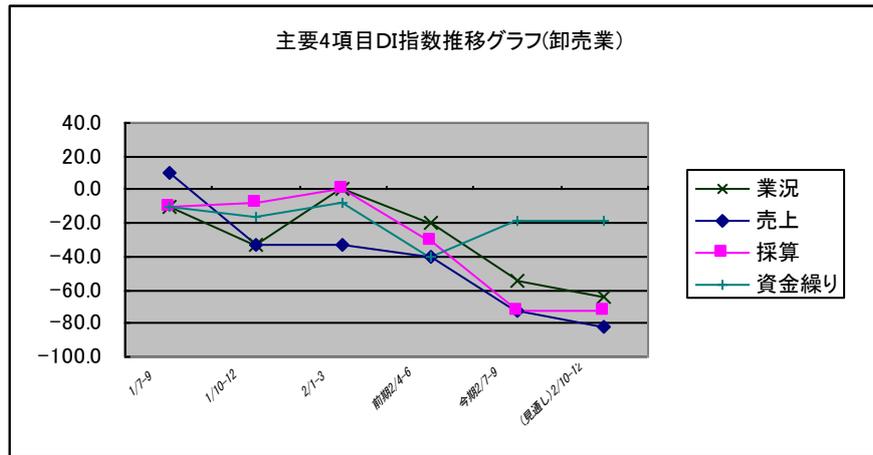


## 卸売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期▲20 から今四半期は▲55 へとさらに悪化した。個別指標をみると、「売上」は前四半期の▲40 から今四半期は▲73 へ、「採算」も前四半期の▲30 から▲73 へと大幅に悪化した。他の業種と同様に、新型コロナウイルスの影響の長期化による消費低迷に加えて、商品調達先での原料調達が困難になっていることや、卸売業の売上に繋がる業務用商品の売先の業況悪化もあり、景況感の悪化につながっていると思われる。

「資金繰り」については、▲40 から▲18 へと改善しており、この業種でも国の融資策が効を奏している様子が窺える。

「従業員」は▲10 から▲9 へと変化は少なく、製造業と同様に、仕事量の減少の影響による人手過剰状態が継続している。

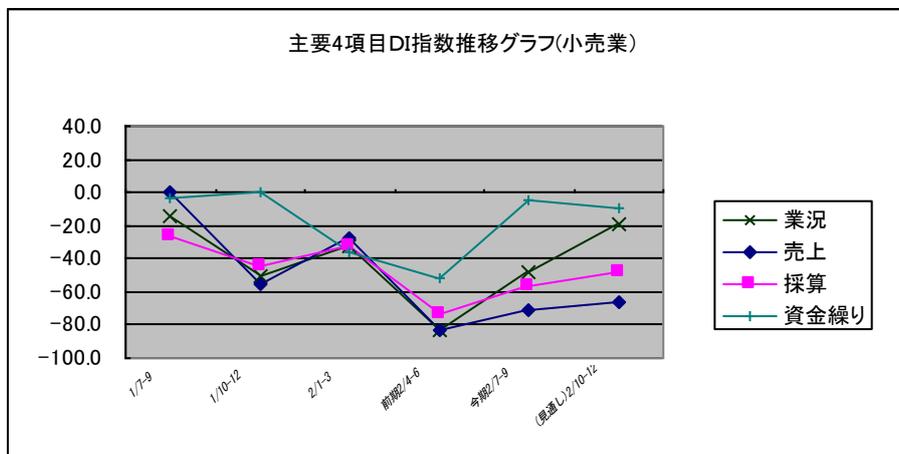


## 小売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲83 から今四半期は▲48 と改善した。個別指標をみると、「売上」は前四半期▲83 から今四半期は▲73 へ、「採算」についても▲74 から▲57 へ共にマイナス幅が縮小している。一部での経済活動の再開やコロナ禍での生活による「巣ごもり需要」を取り込んだ品ぞろえの効果による売上の回復も影響しているとみられる。

「資金繰り」は他業種と同様に、前四半期の▲52 から今四半期は▲5 へと大幅に改善しており、この間の国のコロナ対応融資施策の効果が表れているものとみられる。

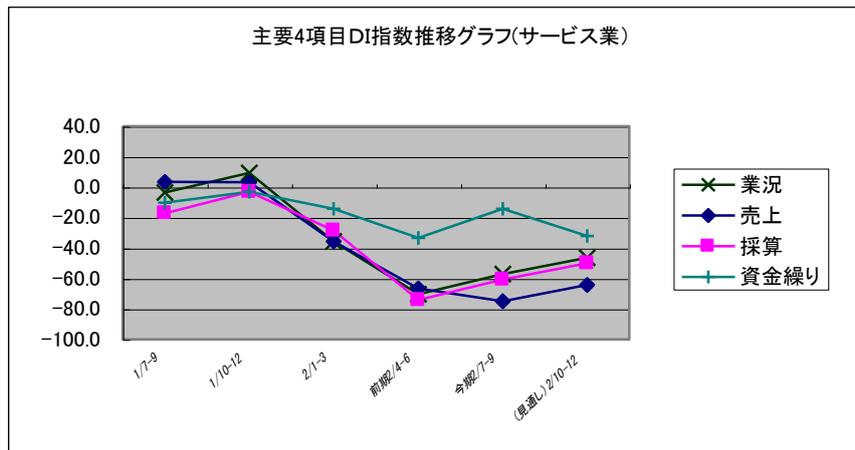
「従業員」は▲13 から+14 へとプラスに転じ、仕事量の増加に伴い、人手過剰状態から再び、人手不足状態となった。



## サービス業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲70 から今四半期は▲57 と改善している。個別指標をみると、「売上」は▲67 から▲75 へ悪化している一方で、「採算」は▲74 から▲61 へ、「採算の水準」も▲33 から▲25 へ、「問合せ」も▲70 から▲54 へと改善しており、これらが業況判断に影響しているとみられる。

人の移動の自粛やイベント自粛、インバウンド客需要蒸発など、新型コロナの影響をまともに受ける業種であるが、Go To キャンペーンなどを契機とした人の移動の増加やオンラインを活用した新たな事業機会の創出や、知恵や工夫を凝らしたビジネススタイルで難局を乗り越えようと模索している例も見受けられる。現状では人手不足感は解消されている。



来四半期(3ヵ月後)の「業況」DIは、今四半期の▲53 から▲41 へとマイナス幅を縮小するとみている。個別指標をみると、「売上」は▲64 から▲63 へ、「採算」についても▲55 から▲57 へと大きな変化はなく、業界全体として回復ペースの足取りは重いとみている。

業種別の「業況」DIでは、製造業は今四半期の▲73 から来四半期は▲46 へ、小売業も▲48 から▲19 へ、サービス業も▲57 から▲46 へとマイナス幅が縮小すると見ている。一方で、建設業では▲33 から▲42 へ、卸売業も▲55 から▲64 へとさらに悪化するとみている。

今四半期は新型コロナ感染が収束の兆しも出てきて、一部で経済活動が再開されたことや、Go To キャンペーン実施の効果もあって、業種によっては景況改善の動きも見受けられたが、人々の移動の増加と寒い季節の到来による新型コロナの第2波による感染再拡大への懸念もあり、全体での先行き見通しは楽観できる状態ではないという声も聞かれている。

「従業員」については、全体として+6 から+12 へと人手不足感が若干高まるとみているが、滋賀県全体の有効求人倍率は新型コロナによる景気低迷で5ヵ月連続1.0を下回っており、引き続き動向に注意する必要がある。

3ヵ月後の設備投資については、「計画がある」と回答した割合は22%で、3ヵ月前の25%より3ポイント下振れしており、設備投資に対する慎重な姿勢が目立つ結果となった。業種別では、製造業が46%で変わらず、卸売業が27%、小売業が19%、建設業が17%、サービス業が14%となっている。

投資する企業の投資内容の割合は、「設備更新」が40%で最も多く、業種別では、建設業で100%、小売業で60%、サービス業で40%、製造業で20%となっている。新型コロナによる業況の落込みがあるものの、老朽化設備の入れ替えは必要と判断されていると思われる。

「合理化・省力化」を3ヵ月前と比べると、全体で13%から30%へ、「生産力増強」は全体で17%が20%となり、全体として低い設備投資意欲の中で、前向な投資姿勢も見て取れる。

投資方針は、「計画通り」が3ヵ月前の57%から43%へ、「景気により見直す」が14%から24ポイント増加して38%となっており、先行きの警戒感が依然として強いことが窺える。

田中マネジメント事務所

MBA・中小企業診断士 田中清行

**(今の経済情勢に対する意見)** 以下は、今の経済情勢に対する意見である。

- ・助成金や補助金を活用し、この先必要と思われることに投資しています。働くということの色々と考えさせられます。(製造業)
- ・当社は主に業務用のお客様が中心となっておりますので、とにかくコロナの影響が一番の問題です。先が見えない状況で見通しも立たないのが現状です。(卸売業)
- ・新型コロナウイルスの終息を願うばかりです。(小売業)
- ・コロナ感染の影響からしばらくは回復できないと考えられる。(小売業)
- ・転換点はわかるが方向や価値がゆれるので難しいと感じています。変化に適応する柔軟性が大切とわかるがこれも同じように自分の中での軸が定まらない事が課題。びびりながらも、一歩前に出ていく事と思っています。(小売業)
- ・コロナ対策資金を公庫・銀行から受け今のところ乗り越えているが、月々経費分約45万円不足が、このまま況気が返らなければ年末が大変になる。学生達の買替えは公庫から借入出来てありがたかったです。何とかまめにメンテナンス、顧客の需要・受注に力を注ぎたい！！営業力を強めるしかない。8月9月はこの猛暑で苦戦です。(小売業)
- ・新型コロナウイルスによる第二波の襲来から今後の需要予測が困難で、事業継続の見通しが見つからない。事業中断か廃業にするか悩ましい時期である。(サービス業)
- ・コロナ感染の影響が幅広い分野で深刻になっています。(サービス業)
- ・7/22よりGo Toトラベルキャンペーンが始まるが、コロナウイルス感染拡大の為にキャンセルが増加した。4~6月に比べ予約数・集客は改善・回復されたが、前年比から見れば70~80%の売上。春の修学旅行の振替が秋に延期されていたが、このコロナ禍の為に軒並み本年度は中止。その分の売上減は大きい。(サービス業)
- ・生活様式の変更で伸びる需要もあり、企業は知恵を絞る必要がある。積極的な設備投資に踏み切るのはリスクが伴う。アクセルとブレーキをどう踏み分けるか、危機の先を見据えた冷静な経営判断が求められる。(サービス業)
- ・県や市に設備投資に対する補助金をお願いしたい。(建設業)
- ・コロナ感染が全国に多発していて、いつ火の粉がふりかかってくるかが心配でなりません。(建設業)

以上

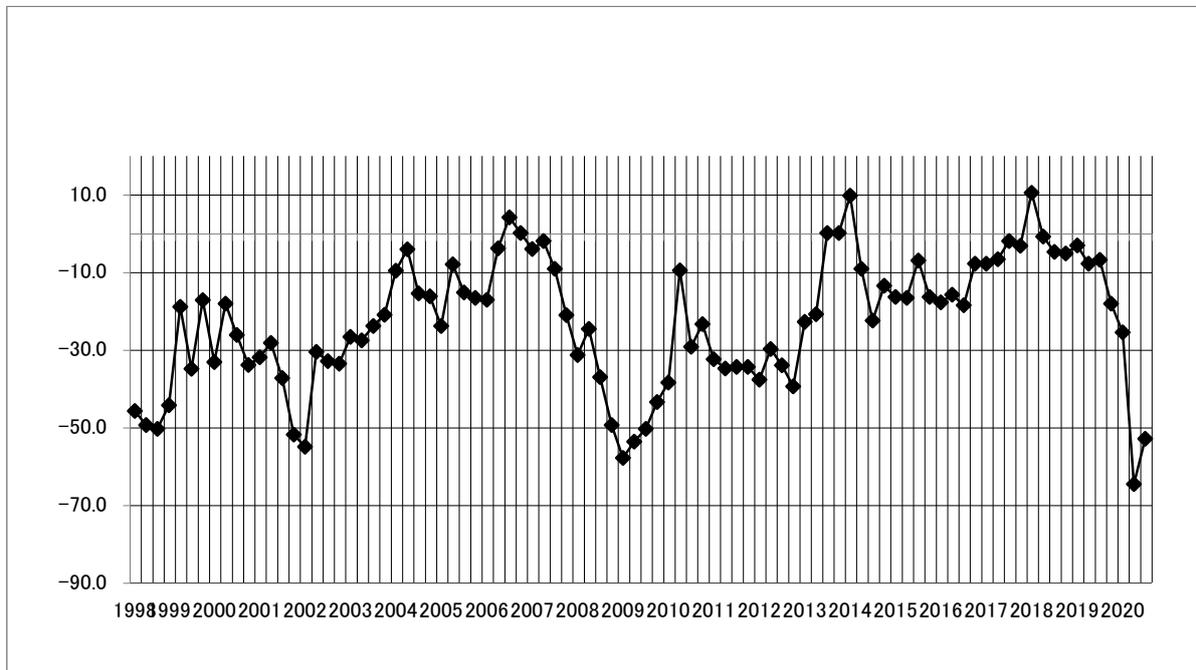
## DI 指数一覧表

	業 況		売 上 高		採 算 (経常利益)	
	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し
全 体	▲53.0	▲41.0	▲63.9	▲62.7	▲55.4	▲56.6
建 設 業	▲33.3	▲41.7	0.0	▲50.0	▲8.3	▲50.0
製 造 業	▲72.7	▲45.5	▲81.8	▲45.5	▲72.7	▲81.8
卸 売 業	▲54.5	▲63.6	▲72.7	▲81.8	▲72.7	▲72.7
小 売 業	▲47.6	▲19.0	▲71.4	▲66.7	▲57.1	▲47.6
サービス業	▲57.1	▲46.4	▲75.0	▲64.3	▲60.7	▲50.0
	前年同期との比較		前年同期との比較		前年同期との比較	

	採算 (経常利益) の水準		取引の問い合わせ		従 業 員	
	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し
全 体	▲13.3	▲16.9	▲41.0	▲43.4	6.0	12.0
建 設 業	33.3	25.0	▲16.7	▲16.7	33.3	33.3
製 造 業	▲27.3	▲18.2	▲36.4	▲27.3	▲9.1	▲9.1
卸 売 業	▲27.3	▲36.4	▲36.4	▲45.5	▲9.1	0.0
小 売 業	▲9.5	▲14.3	▲42.9	▲42.9	14.3	19.0
サービス業	▲25.0	▲28.6	▲53.6	▲60.7	0.0	10.7
	今期水準と来期見通し		今期水準と来期見通し		前年同期との比較	

	資金繰り		長期資金借入難易度		短期資金借入難易度	
	7-9月期 動向	10-12月期 見通し	7-9月期 動向	10-12月期 見通し	7-9月期 動向	10-12月期 見通し
全体	▲13.3	▲22.9	6.0	1.2	3.6	0.0
建設業	▲8.3	▲25.0	25.0	25.0	33.3	25.0
製造業	▲27.3	▲27.3	18.2	0.0	9.1	9.1
卸売業	▲18.2	▲18.2	0.0	▲9.1	▲9.1	▲18.2
小売業	▲4.8	▲9.5	4.8	0.0	4.8	0.0
サービス業	▲14.3	▲32.1	▲3.6	▲3.6	▲7.1	▲7.1
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

本調査開始（1998年 第二四半期）以降 業況DI指数推移グラフ（全体）



※縦目盛り軸は、全業種の業況DI指数を表しています。横目盛り軸は、調査年を西暦で表しています。

## 大津商工会議所

〒520-0806

滋賀県大津市打出浜 2 番 1 号

コラボしが 21 9 階

TEL : 0 7 7 - 5 1 1 - 1 5 0 0

FAX : 0 7 7 - 5 2 6 - 0 7 9 5

URL <http://www.otsucci.or.jp/>